

戸爲里の説によれば、村中の里と云ひ、村もと畠に作る、正字通に、經史に村字なしといへり。
〔安齋隨筆 前編十五〕一村農民の住居する處をムラ村ノと云、又物の平均ならざるをムラノ字
といふ、物の一處に集るをムレと云、ムレと云はムラノ轉語也。何もムラと云はムラガルなり、字也ムラガル
は物の多ク集るを云也。○下

〔日本國郡沿革考 総說〕按略○中 又國史處々有某鄉某村之文、然令式偕不見、以村係里之制、是亦可疑
也、今以臆度推考當時之形勢、在昔創建鄉里、大抵據山河之位置、算戶口之多寡而定之、然一鄉之民、
素不居一處、或取便群居於幾處、於是不能不爲之區別、已有區別不能無之稱呼、是村名之所以因起
也、村之訓本出群之義、國也、蓋立里之制、出于朝廷之法、群處之名、出于自然之勢、而當時民間或村里相通稱之、故如令義解、
以里直爲雖然、本是非朝廷之制、故令式無明文也、及于中世、禍亂相踵、朝綱弛紊、所在土豪爭占土壤、
或分割一鄉、各有其地、隨便多以村名呼之、於是昔時之制度皆廢、遂以鄉名爲贅物、至於今世、海內通
制、以村直係郡、佛中國都宇郡、箕島村、如是等之類、偶以里爲村、自興今制異、鄉里之遺名、有纔存土人
之口碑耳、是皆出不得止之勢也。

〔日本書紀 神代〕一書曰、伊弉冊尊生火神、時被灼而神退去矣、故葬於紀伊國熊野之有馬村焉。
〔播磨風土記 大禾郡〕比治里○中 宇波良村、葦原志許乎命、占國之時、勅此地小狹如室戶、故曰表戶。
〔日本書紀 景行〕四十年七月戊戌、天皇持斧鉞以授日本武尊曰、朕聞其東夷也、識性暴強、凌犯爲宗、村
之無長、邑之勿首。○下

〔柳亭記 上〕不入計

武州荏原郡不入計村、他國にも此村名ありて、或いりやます村とよめり、按に惠空編節用大全、以
行姓氏の部に入不讀と記して、いりやますとかなをつけたり、算ふるを讀といふは古言なり、計も
又算ふる意なり、さればいりやますは、いれよますの音便、かぞへいる、程にもなき小村といふ